

第3回真鶴町学校建設準備委員会 議事録

日時：令和5年12月12日（火）13時40分～16時00分

場所：真鶴町民センター2階 第2会議室

委員：長澤 悟（学識経験者）	竹原 和泉（学識経験者）
瀧本 朝光（教育委員）	藤井 明香（公募）
玉田 麻里（公募）	山口 稚奈（幼稚園PTA）
勝山 匡（小中学校PTA）	朝倉 隆（真鶴町自治会連合会）
古川 昌子（民生児童委員協議会）	伊藤 晴美（人権擁護委員会）
倉澤 良一（ひなづる幼稚園）	露木 寛子（まなづる小学校）
市川 麻美（真鶴中学校）	上甲 新太郎（副町長代理）
瀨瀬 仁志（教育長）	<敬称略>

開会

教育長挨拶

- ・皆さん、こんにちは。今回のくじ引きは、日本の文豪、夏目漱石の言葉をヒントに事務局の指導主事が考えたもの。その言葉は、「あなたが今蒔く種は、やがてあなたの未来となって現れる」。この言葉の、あなたを「学校建設準備委員会」と「真鶴町の教育」に置き換えると、「学校建設準備委員会が今蒔く種は、やがて真鶴町の教育の未来となって現れる」となる。委員の皆さんの一つ一つの思いが種であり、それがやがて真鶴町の教育の素敵な未来につながって欲しいという願いがこのくじには込められている。
- ・今日も充実した委員会になるよう、よろしく願いしたい。

瀧本委員長（進行）

- ・前回の記録を読ませていただき、皆さんから素晴らしい意見がたくさん出ていた。それを一つ一つ生かせるようにしていきたいと思うので、よろしく願いしたい。
- ・次第に沿って進めていく。

報告

○第2回学校建設準備委員会について（事務局から）

- ・すでに、ホームページ上に掲載しているが、最初に長澤副委員長から全国の一貫教育校についての事例や情報提供をしていただいた。その中で、従来の固定概念から脱却して学校・新しい学びを想像すること、地域みんなの学校として捉えていくこと、学校施設全体が学びや交流の場であると捉えることなどの示唆をいただいた。
- ・その後、一貫教育校の形態について、一貫教育校の建設場所について協議をし、準備委員会として校舎は施設一体型とすることで決定した。建設場所や、義務教育学校にするか小中一貫型小中学校にするかについては、結論は出ず持ち越しとなった。

○第2回教育を語り合う会について（事務局から）

- ・これもすでにホームページ上に掲載しているものである。先月11月18日に行い、48名の参加があった。最初のワークショップでは、「真鶴の教育の強みって何だろう？」というテーマで話し合い、住民と学校との協力関係、豊富な教材、小規模校の魅力などが挙げられた。
- ・次のワークショップでは、「一貫教育学校に望むことは？不安なことは？」というテーマで話し合い、望むこととして学習カリキュラムの充実、交流・繋がりによる支援、教員間の連携などが挙げられ、不安なこととしては人間関係の固定化、リーダー性を培う機会、学校間の調整などが挙げられた。意見のいくつかは、新しい学校の基本構想に反映させていきたい。

質疑

藤井委員

- ・語り合う会の来年度以降の予定はどうなっているのか。
⇒（事務局）来年度以降もやる方向で考えている。

○保護者アンケートパート1の集計結果について（事務局から）

- ・一貫教育校に対する現時点での思いを知るために、幼保小中の保護者と職員を対象に、先月6日から18日にかけて行った。前回、委員の皆さんからいただいた意見を参考に、親子でも相談できるように選択肢を分かりやすくし、また、今までの取り組みを二次元コードから辿れるように工夫をした。
- ・「開校計画」については、知っていると回答した保護者は、思った以上に割合が高かった。「一貫教育校の教育について」は、保護者の8割が「ほとんど知らない」や「知らない」と答えており、一貫教育校の教育の可能性について今後いろいろな場面で伝えていく必要がある。
- ・「一貫教育校に期待すること」については、保護者、職員ともに、「丁寧な学習指導・児童生徒指導ができる」ことを1番に挙げている。
- ・「一貫教育校に不安に思うこと」については、保護者、職員ともに、「人間関係の固定化」を1番に挙げている。次に保護者は、「小学6年生での卒業式など節目がなくなること」を挙げ、職員は「幼保小中の生活リズムや行事等の違い」を挙げている。学年の節目をどう設けるのか、日課などをどう調整するのかは今後大きな課題となる。
- ・自由記載欄については、じっくりと見ていただいて、次回以降の話し合いの参考にさせていただきたい。なお、幼保小中の保護者の方には、年内に資料を配付する予定である。

質疑

藤井委員

- ・アンケートパート2以降の考えを聞かせて欲しい。
⇒（瀬瀬委員）3回くらいまでは行いたいと思っている。問1の開校計画と問2の一貫教育校の教育については継続し、推移を見ていきたい。問3や問4については、もう少し具体的に期待する施設や設備などを項目立てし、今後の参考にしたいと考えている。時期についてはまだ決めていない。

玉田委員

- ・小学校では53.1%ほどしか回収できておらず、保育園も少ない感じがする。今後どのように回収率を上げていくのか、現時点でのお考えがあれば教えて欲しい。
- ⇒（事務局）もっと伸ばしていきたいとは考えている。先生方とも相談しながら取り組みを考えていきたいと思う。

勝山委員

- ・もう少し子どもの声が欲しい気がする。第2回を想定しているのであれば、実際に使っているのは子どもなので、もう少し子どもの声も欲しいかなと思う。
- ⇒（事務局）アンケートではないが、来週、小学校は6年生、中学校は生徒会の子どもたちに直接声を聞く機会を設けている。

伊藤委員

- ・不思議だなと思ったのが、開校計画を知っている方が全体の66.8%であったということ。これだけの人が開校することを知らないのは、すごく腑に落ちない。保護者と職員の方、関係者の回答としては少し気になる。
- ⇒（瀧本委員長）3分の2が知っているから多いではなく、100%をめざさないといけない。私たちや行政のほうで、学校へのアプローチをして100%に近づけていくという取り組みをぜひやっていただきたい。

藤井委員

- ・今後のアンケートと子どもたちの声を聞いていった時、おそらくこの語り合う会に出てきている意見と同様のものが集まってくる可能性が高いと思う。具体的にどのようにして基本構想に盛り込むのか、具体策について何か考えていたら教えて欲しい。
- ⇒（事務局）これから具体策を考えていきたい。

瀧本委員長（進行）

- ・何かアイデアがあれば出して欲しい。

藤井委員

- ・バラバラと意見を直接盛り込むのではなく、カリキュラムや校舎の形として具体的にどう叶えられるかを専門的に咀嚼するフィルターがいるのではないかなと思う。集まってきた意見を建設計画につなげる、専門家の会議体が必要ではないかなと思う。長澤委員や経験のある方に、他の自治体で一貫校を建設した際にワークショップやアンケートをどうつなげていったのか聞きたい。

長澤委員

- ・準備委員会もでき、具体的な学校計画の段階に入ったことをベースにして、皆さんの意見をもう1回確認したり、ワークショップで意見を拾ったりすることは大事なことだと思う。そして、基本コンセプトに集約していくプロセスがあるといいと思う。この準備委員会でそういうコンセプトをまとめていく過程を確認できると良いと思う。
- ・具体的にいろいろな条件をみんなで共有した次の段階として、施設の姿というのが見えてくる。どういう会を作るといふより、その道筋を共有できるように、事務局でまとめると良

いと思う。具体的な段階になると、楽しみや夢が膨らみ、皆さんの関心も高まっていく。そして、何が条件の中で難しいか、どういう形だったらできるのかという意見交換ができるのだと思う。

- ・まずは、具体的な条件を確認し共有する段階で、それを踏まえて、施設の構成みたいなものを考えていけば良いのではないかと。それと、期間がどのくらいあるのか、いつ頃までにこれを行うかということは、皆で確認できると良いのではないかとと思う。

藤井委員

- ・基本構想を来年度で決めて、再来年度から基本設計に入ってしまうと、建築的には具体的にどんどん進んでしまうという感覚をもっているのが、要望・方針をまとめるのにあと1年しかないと感じている。

瀬瀬委員

- ・補足させていただく。資料6はいわゆる基本構想のたたき台になるもので、準備委員会の1回目と2回目、語り合う会の1回目で皆さんから出された意見を事務局で整理したもの。
- ・先ほどのフィルターが必要だとの話は、まさにここにいる委員の皆さんがフィルターであって、今日の話し合いや2回目の語り合う会、アンケートの結果を参考に次回に意見として出させていただき、毎回ブラッシュアップしていきたいと考えている。皆さんで作り上げて欲しいという気持ちでいる。
- ・改めて別の組織を作っても、この準備委員会との区別が分からなくなってしまう。あくまでも、準備委員会で確認したことを積み上げていく作業を進めていきたいと思う。
- ・また、今回のアンケートは現時点での現状を知るためのもので、この数字を上げていくために、それぞれの組織で協力いただき、100%に近づけていく作業をこれから進めていきたい。

瀧本委員長（進行）

- ・フィルターとなるような会議体が必要ではないかという意見があったが、この準備委員会のメンバーがそのフィルター役になろうということである。事務局から資料をもらって何かをというのではなく、すでに話題になったことについて意見がある場合には、それを事務局に出していただき話し合いを進めていきたい。意見を取り入れながら、事務局が道筋を作り、私たちがフィルターになることで主体的に取り組んでいくことを確認したい。
- ・長澤委員が言っていた、議論の中で楽しみを作ること、新しいものを作るワクワク感、それを皆さんで共有する時間をたくさん取ってほしいと思う。ある程度道筋を決めたら、それについての楽しみを皆で共有していきましょうということを進めていきたい。

伊藤委員

- ・教育を語り合う会で小学生が出席するという話があったが、それはどうなったのか。
→（事務局）第3回目の語り合う会で、小学生の何人かに参加してもらう予定である。

伊藤委員

- ・勝山委員の子どもの意見もという気持ちにつながるの、少し楽しみにしている。

玉田委員

- ・教育を語り合う会への小学生の参加について、確か土曜教室に通っている6年生が対象だったと思う。今度教育委員会が小学校まで出向いて6年生の声を聞くということだが、おそらくほぼ一緒のメンバーではないかと思うが、意見を聞く内容が全く違うのか。

⇒（事務局）来週行う子どもたちの願いを聞く会は、特にテーマがあるわけではなく、子どもたちがどういう学校に行きたいのかなど、子どもの声をそのまま聞く会となる。3回目の教育を語り合う会はテーマが元々設定されていて、そのテーマに沿った話し合いを地域の方と一緒に考えていく予定である。

長澤委員

- ・今の中学生は、この建物ができた頃には誰も校舎にはいない。しかし、今までの経験で、中学生というのは課題を与られるとすごい力を発揮する。自分たちはその新しい校舎にはいないけれど、そこで学び、生活する子どもたちのために自分たちの意見をまとめて伝えたいという、やはり将来を支える子どもたちだという感じをもったことがある。中学生にもこの課題についての役割意識がもてるような、そういう進め方もぜひ考えて欲しい。生徒会にはすごい力があると思う。

市川委員

- ・コロナで途中途切れているが、「未来の真鶴に向けた提言」というものを総合学習で進めていた。それを思い出した。違った形で新年度続けていきたいと思う。

瀧本委員長（進行）

- ・2月の教育を語る会について、先ほど土曜教室のメンバーという話があったが、中学生も含めて、あるいは小学校6年生だったら6年生全員を対象にすることは、土曜日なので希望者になるがそれは可能か。

⇒（事務局）前向きに検討する。

竹原委員

- ・中学生は自分がハード的にもソフト的にも学校に関わったということが、その子の大きな力になると思う。地域に深く関わった子どもは、地域に戻ってくる可能性が高いというデータのエビデンスが出ている。愛するようにもなるし、「この町で生涯を送ろう」とか「この学校は自分が作ったんだ」という自負にもつながる。
- ・被災地でよくそういう場面を見てきたが、何となく参画してもらって良かったぐらいではなく、大人が本気で受けないといけない。本気で子どもの意見を聞き、実現していく気持ちがとても大事なのではないかと思う。
- ・山田町で図書館を作る時に、「寝転がって電車を見たい」と子どもが言い、図書館の和室に丸い窓を2つ3つぐらい開けた。寝転がるとちょうど電車が見えるように、しっかり設計をしていた。それくらい受け止めないと、多分子どもたちは失望するだろうから、本気で大人も受け止めることが大事かなと思った。

協議

○幼稚園・保育所と一貫教育校について（事務局から提案）

（事務局）

- ・提案「建設を予定している一貫教育校（施設一体型）は、小学校（まなづる小学校）と中学校（真鶴中学校）とで構成するものとし、幼稚園（ひなづる幼稚園）及び保育所（貴船愛児園、石田保育園）は含めない。」理由「①5歳までの乳幼児期と、6歳から14歳の児童・生徒期では、子どもの生活環境に大きな違いがある。乳幼児期では、安全・安心な遊びの空間を大切にしており、児童・生徒と一緒にその空間の確保が現実的に難しい。②町内の保育所はすべて民営で、長年、保育を中心にそれぞれの方針で運営を行ってきており、教育を柱とする施設に併設することは早急である。③義務教育学校になった場合、教職員の組織自体が大きくなり、幼稚園の園長と小中一貫教育校の校長を一人で担うことは難しく、円滑な運営ができない可能性が高い。」その他「幼稚園及び保育所の将来のあり方については、子どもの人口推移を見守りながら、今後の検討課題とする。真鶴町の一貫教育とは、幼稚園教育の小中学校の教育も含めた考え方（12年間）であり、今後も一貫教育校と連携し、幼稚園教育はその基礎を培うものとする。」これは8月17日に行われた幼稚園・保育所の将来を考える会で出された意見や、前回の建設準備委員会で倉澤委員から出された意見を参考に提案するものである。

瀧本委員長（進行）

- ・倉澤委員から補足等はあるか。
⇒（倉澤委員）特にない。

協議

上甲委員

- ・理由の②で、平成24年に子ども・子育て支援法が改正され、保育園も教育の一環であるとされた。少し誤解を招くような文かと思った。公表するのであれば、少し気をつけて出していきたい。

瀧本委員長（進行）

- ・では、②については若干修正があり得るということで、確認しておく。

玉田委員

- ・幼稚園及び保育所の将来のあり方について、人口推移を見守りながら検討課題とすると書いてあるが、確か小学校が2030年代の半ばに建物の更新時期を迎え、後半に幼稚園、中学校の更新時期を迎えるということだったので、時期としては3校（園）ともほとんど変わらないのかなと思う。判断は今すぐでないのなら、いつくらいにされる予定なのか。
⇒（事務局）行政的な話になってしまうが、幼稚園は教育課が担当で、保育所は石田保育園も貴船愛児園も民営であり、福祉課が担当しているので、この場で何年くらいを目途にと言えない。町長部局といろいろ検討しながら考えていきたい。

瀧本委員長（進行）

- ・それぞれ検討というか、話題にはなっているということで良いか。

⇒（事務局）保育園の意見もあるので、いろいろな関係者と話をしながらになるかと思う。

玉田委員

・幼稚園の園舎の更新については、新しい建物を建てることになると思うが、その検討はこの学校建設準備委員会とは別に委員会を立ち上げる方向で考えられているのか。

⇒（瀬瀬委員）申し訳ないが、今は分からない。課題であることは福祉課も教育課も認識しているので、今後については並行して進めることになると思う。園舎についても全面的に建て替えるのか、どこかに移転するのか。移転先としても、どちらが残った方の跡地を利用するのか、あるいは保育園との絡みの中で、こども園も当然選択肢に出てくる。話し合いはこれから詰める形になる。

瀧本委員長（進行）

・では、園で保護者の意見等が出てくるようだったら、事務局に伝えていただければと思う。

藤井委員

・小中学校が新しく建設された時に通う未来の子どもたちは、今の幼保を経て入学してくることになる。全く未定と言われた幼保の方向性は重要で、プロモーションとして真鶴町の教育体制が変わっていくので、ぜひ小中を待たずに、幼保の段階から移り住んで欲しいということをお願いするべきと思う。うまく流れに乗せられると、前回の人口推移のように減っていくのではなく、せめて現状維持の段階に踏み留まれるのではないかと思う。

・教育課だけの問題ではなく大変だとは想像するが、町の総合計画的なところに食い込むくらいの勢いで、これはすごくチャンスだと思っているので幼保との連携、魅力向上を頑張ってもらいたい。

勝山委員

・施設一体型で、隣接型ではなくなったと理解して良いのか。施設一体型と施設隣接型と施設別々型の3択だったと思うが。

⇒（瀧本委員長）前回、一体型でということが決まったと思う。

勝山委員

・一体型は一体型なのだが、小中学校の隣に幼稚園を建設するような話もあったので、そこが今どうなっているのか。そこがはっきり決まらないと、こちらも動かないのかなと思う。

瀧本委員長（進行）

・小中の一体はもうオーケーですか。

勝山委員

・小中の一体は良い。小中の一体型に施設を隣接するのかしないのか。そういう話は出ているのか。

⇒（倉澤委員）8月の時点では、幼小中の一貫校の中には、保育園は民間なので入らないということで承知されていた。隣接されるところに保育所が移れるかどうかは、民間としてはそれどころではなく、今の保育所の運営、経営が一番で、そこまでは考えていないということだった。公立の幼稚園と民間の保育所は、それぞれ違いがあるということで、そちらを尊重させていただいている。

瀧本委員長（進行）

- ・一体型の一貫教育校の隣接で、園を入れることは考えていないということで良いか。
⇒（倉澤委員）そうである。

勝山委員

- ・であれば、幼稚園自体の耐用年数が切れるので、ここで並行して進めるべきだろうなと思った。

瀧本委員長（進行）

- ・今日突然の話なので、ここは一旦持ち帰り、次回以降、事務局から何かしら意見を出してもらえるような形にしていきたい。町の園なので、今後どうするかについて、近い将来話し合っていければありがたい。
⇒（事務局）就学前の子どもたちにどういった教育・保育が相応しいのか、どういった施設が良いのか。保育所と幼稚園は別々に考えるべきものなのか。今日は所管課が来てないが、まずそこから考えていきたいと思う。

朝倉委員

- ・基本的なことだが、貴船愛児園には通っている子どもが多く、幼稚園のほうは湯河原からも来ていて、それで今年の年少は5人くらいか。
⇒（倉澤委員）7人である。

朝倉委員

- ・7人で、そのうち真鶴町の子どもは何人か。
⇒（倉澤委員）3人である。

朝倉委員

- ・統計を取ってもらえれば分かるが、どんどん少なくなっている。それでも、貴船愛児園はあまり減っていないらしい。町全体として、年少年中年長の人数はそんなに変わらなくても、共稼ぎであったりすると、やはり民営に行くのか。その傾向も一緒に考えたほうが良いのではないか。民営はそれぞれの経営があるからできないが、もっと人数が少なくなっていくのではないかと危惧している。

上甲委員

- ・児童や園児数の推移は、その年によってかなり違う時がある。東日本大震災の時に貴船愛児園が海に近いので、入園者数が激減した年があった。2012年、2013年だったか、1人、2人だった。その時に、このままだと経営が続かないからということで認定こども園も考えていくことはどうかと協議したことはある。
- ・今は、園児数は貴船愛児園のほうが全然多い。石田保育園よりも多くなってきた。園の経営状況は、その時代によって変わってしまう。相手が民間なので、認定こども園を作るにしても、民間と公立なので議論にはやはり時間がかかり、すり合わせも必要になってくる。この議論を始めていくことも必要だと思う。

朝倉委員

- ・最近、日本全体の婚姻数が予想より減っている。婚姻数が少なくなると、当然子どもも減ってくる。それは真鶴のことだけではないが、全国的にそうである。すごく危惧している。
- ・早めに議論をしていかないと。真鶴では耐用年数の問題が中学も幼稚園もありますと言っている中で、何か非常に緩い。これから考えるということでは駄目ではないのかなと思う。

瀧本委員長（進行）

- ・幼稚園の耐用年数や子どもの数の増減などについて危惧が出たということと、園舎更新について、ぜひ早く検討を始めて欲しいということの2点を、その担当部署と教育委員会のほうにお願いをする形で話を進めていきたいと思う。
- ・それでは、一つ目の協議の採決をさせていただきたいがどうか。

長澤委員

- ・倉澤委員と皆さんの意見を聞いて、今後の真鶴における幼児教育の環境の整え方を理解した上で考えていかななくてはいけないことが分かった。理由の①は一般論的に書かれているが、幼小中一貫で0歳から15歳までの育ちの場、0歳から15歳までを地域の人に関わり将来の町づくりにつなげるんだという構想は各地で見られる。一般論的に書かれると、それは基本におかしいというような流れになってしまうので、真鶴としての個別の条件や、真鶴としてこういう幼児教育を捉え、そのための施設整備をしていくんだという理由を、もう1回吟味していただきたい。その上で決定するなら良いが、一般論的なものを掲げて決定をするのは考えていただきたい。

瀧本委員長（進行）

- ・今までの話の中で、文章にすると良いという内容もあったような気はする。

長澤委員

- ・町としての考え方をきちんと書き出して、対外的にも説明資料になるようにしていただけると良いと思う。

竹原委員

- ・新しい学校を作るには、今までの学校をそのままスライドさせるのではなく、真鶴ならではの新しい学びの場や、子育てしやすい町を、大人も関わりながら作っていくものではないのかなというイメージがある。未来志向で考えると、幼稚園から中学までこの学び舎でいたらどうだろうという提案もできるはずなので、もう少し議論を深めておいたほうが良いのではないかと考えていた。それが、これからの真鶴を作る基盤になるのではないかなと思う。

事務局

- ・ここに書かせていただいた理由だが、8月の幼稚園・保育所の将来を考える会は、幼稚園、石田保育園、貴船愛児園の園長先生と、所管課として教育課と福祉課という真鶴の幼児教育・保育に係る関係者で行った会議で、園長先生たちから実際に出された意見になる。例えば同じ敷地に、保育園だと本当に小さな子どもがいて、一方で、大きいお兄さんやお姉さんがサッカーをやったり野球をやったり、授業をしている中で、やはり安全性などの心配もあ

り、保育園にはお昼寝の時間もある。学校の大きさには限度があり、生活リズムなどが実際に同じところになると難しいという意見は、リアルに出てきたものになる。

藤井委員

- ・それも、もしかすると解決策があるのかも知れない。例えば、幼保小中一貫学校への視察や、実際にそこで教育されている先生方に話を聞く機会があると、今までの感覚とは変わって未来への創造という捉え方で関係者の意識が変わってくる可能性はないのか。そのあたりの情報共有をした上での議論を期待したい。

瀧本委員長（進行）

- ・この理由3つで採決するのは少し難しいかも知れないが、やはり長い伝統のもとで、長い歴史のあるそれぞれの幼稚園・保育所を守っていくという立場で来られた、園長先生たちの話し合いの中で出てきた結論としての提案だということは押さえておきたい。先ほどから出てくる話を受けて、採決を今日行うか、次回に回すかを皆さんで判断してもらいたいが、本来決めるべきものが後回しになるのは、遺憾なところもある。

上甲委員

- ・次の議題は学校建設候補地。そこを視野に入れると、幼保を一貫教育校に含めるのは難しいから、こういう提案になってきていると思う。ただ、ハード的な理念とソフト的な理念があるので、その付帯意見として、場所は別々、保育と教育は別々だったとしても、真鶴の子どもたちを育てるという理念は、一つ芯を通して、保育園も幼稚園も同じようにやっていくんだというようなところは残して、受けてもらえないものかと思う。
- ・敷地が無限にあって、小中一貫校が建てられ、隣接したところに幼稚園が建てられるような広大な土地や候補地があれば良いと思うが、現実的に非常に難しい。

勝山委員

- ・例えば、新しい学校を作るにあたって、石田保育園、貴船愛児園、幼稚園が使える空間と一緒に作れば良いかなとも思う。現在の小中学校の施設に、それ専用の空間はないので、逆に新しく学校を作るのであれば、コミュニティルームのような3園の子どもたちが集って遊べるような、教育できるような空間を作ることも、一つの打開策になると思う。

瀧本委員長（進行）

- ・真鶴町で今までもやっている幼小中の一貫教育という、その考え方を生かした校舎を作っていく。幼小中が一貫なので、そういうスペースが考えられるのではないかという具体的な話になった。現状としては、幼小中同じ校舎の中に入れることは、園長先生が拒否されているので、それは無理だということになる。理由については、委員の皆さんの思いが入るような形で直していただき、提案内容について採決したいと思うが良いか。
- ・もう少し時間を取ってという意見もある中で本当に申し訳ないが、それ以降のことも考え、ここは今日決めさせていただきたいと思う。

長澤委員

- ・文章を含めて、理由だけは精査していただきたい。真鶴町の状況や子どもの育ちを踏まえた上で、選択をするということは当然あると思う。

玉田委員

- ・やはり長澤委員が携わった幼稚園や一貫教育校の事例などを、もう少し聞いてから判断したいと思う。もちろん生活のことを考えたら、別々というのも確かに理解できるが、何とも判断ができない。実際に幼小中となっている学校が今どのように運営されているのか、実際の学校の先生たち、幼稚園の先生たちがそれをどう感じているのかなど、何かそういう判断材料がないとすぐに決めきれない。
- ・遊びが学びへつながっていくという人間の中の自然な育ち、この流れというものもすごくあるのかなと思っていて、幼稚園・保育園でたくさん遊びながら、お兄さんお姉さんが学んでいく姿を見て成長していくこともすごく大事なのかなと思う。

瀧本委員長（進行）

- ・個人的な意見だが、幼小中で同じところという学びはたくさんあると思う。ただ今回、8月に園長先生方が話をしているわけである。そこは公的な話し合いの場であり、その結果が無理だということを出ているので、それについてどのくらい言えるのかは、かなり難しい。民間経営に対して、公的なところからの意見で修正するような形になってしまうのではないかなと思う。越権行為になってしまう。そこまで町が口出しするのかという話になる可能性もある。全く何もしなかったのではなくて、8月にきちんと話し合いをしてくださった上での結論なので、また戻ってもう1回話し合いをするのは、かなり難しいことだろうと思う。

長澤委員

- ・混乱させてしまって申し訳ないが、幼稚園も一緒にした方が良いということを行っているわけではない。どっちであるべきだという話ではなく、その選択は個々の地域、個々の自治体で、その状況に応じて判断すればいい。判断する理由というのは、その自治体としての考え方が、一般論も踏まえながら、明確に示されれば良いということである。
- ・幼保と小中を別にすることに対して、おかしいと言っているわけではなく、町としての理由がきちんと書かれていれば、ここで決めて良いことだと思う。べき論で語るものではないと思っている。

瀧本委員長（進行）

- ・今まで議論を進めてきた中での提案なので、これまでの意見を聞き、それぞれ採決の中で意思を示していただければと思う。
- ・協議「幼稚園・保育所と一貫教育について」の提案に、賛成の方の挙手を求めます。
(挙手) ⇒ 【賛成多数】
- ・賛成していただけない方には、これから徐々に説明をさせていただくということで、提案通りで決めたいと思う。

瀬瀬委員

- ・最後に一つ。場所としては離れるかも知れないが、幼稚園も含めた12年間の一貫教育は今までも続けてきたし、これからもそれを深めていきたいと考えている。間違いなく約束したいと思う。幼稚園と保育所の関係については、具体的な話はこれからになる。幼稚園のことを

見捨てるということでは絶対ないので、教育委員会も積極的に関わり、皆さんにもまた報告できる日が来るかと思う。

休憩

瀧本委員長（進行）

- ・後半の部に入りたい。4時までということで延長はしない。このあとの案件については、結論が出ないまでも、それぞれ30分弱で行っていききたいと思う。時間で切るのので、その時点で結論が出るようなものは出すが、出なければ継続としたい。

協議

○学校建設候補地の比較について（事務局・小学校長・中学校長・藤井委員から説明）

（事務局）

- ・前回の資料に加除修正を加え、安全・安心、環境、施設・整備とその他に区分けをしてまとめた。この資料を参考に協議し、ある程度方向性が見えたらと考えている。
- ・併せて、別資料として、令和5年12月1日、令和4年12月1日、令和30年の3年分の自治会別、年代別の子ども数を示した表を用意した。その下には、町のホームページから引用したもので、自治会はどのエリアにあるのかという地図も付けたので参考にしたい。
- ・また、子どもたちが今町のどこに住んでいるかという分布も、すごく大切だという意見も聞いていたので、校長先生たちに資料を用意していただいている。露木校長と市川校長に、説明をお願いしたいと思う。藤井委員からも、事前に意見として資料提示したいとのことだったので説明をお願いする。

（露木委員）

- ・これは自治体別にはなっていないが、ここに描かれているオレンジとか赤とかの線は通学路である。新1年生の就学説明会の時に、どこに住んでいるのかシールを貼ってもらうようになっている。学年別になっていて、7年間分くらいのシールが貼ってある。シールの色は学年別になっていて、家庭訪問などで利用している。
- ・一番集中しているのは、やはりこの近辺（駅から小学校にかけて）になるということが分かる。もちろん地図の上の方には、バスで通っている子どもたちもいるが、全体に散らばっているので、来年今の6年生が中学生になったとしても、そんなに分布は変わらないと思う。駅からこの小学校までの辺りが一番多い場所になっている。

（市川委員）

- ・中学校の地区別生徒数ということで、2020年度の方までデータがあったので、今年度から遡って3年分しかないが出してみた。別紙の参考資料と同じ地区割りになっていると思う。この4年間で大きく推移しているところはないが、特徴的なのは城北地区が一番多いというところである。

(藤井委員)

- ・ 建築的な視点と都市計画的な視点からの意見を資料にまとめてきた。もう少しこういう部分を皆さんで議論したいので、今日、場所についての結論を出すのは早いかなと思っている。
- ・ 校舎の建築年月については、わずかながらでも中学校に5年間差があって、どちらも目標使用年数は60年になっている。片方が小中学校になるとして、もう片方の廃校利用も同時に考えなければならない。廃校利用の観点でいくと、既存利用もしくは改修をして有効なのは中学校のほうと言える。
- ・ 敷地面積については、中学校は町立体育館とテニスコートを除くと15,280㎡となり小中の差は2,000㎡ほどになる。さらに、延床面積については、「新たな学校作り庁内検討委員会話し合いのまとめ」という資料を基にすると、推定必要面積は本校舎7,000㎡ほど、体育館2,000㎡ほどと書かれている。これと対応させると、例えば小学校の敷地に小中学校が建った場合は、今の本校舎程度の建物のボリューム、体育館は少し大きくなる程度となり、中学校の敷地に建った場合は、本校舎は今よりも一回り大きいぐらいで、体育館は今の中学校の体育館が2倍以上になるようなイメージになる。
- ・ 都市計画用途地域というところでは、小中とも第一種中高層住居専用地域で一緒だが、その他に真鶴町には景観計画の土地利用規制基準の地区があり、小学校と中学校の特性が分かれてくる。真鶴町が独自に制定している景観計画の中にある土地利用規制基準の地区区分図で見ると、小学校は普通住宅地区、中学校は専用住宅地区に属する。現在小学校がある地区は、真鶴町の歴史的な景観が残っている地区であると定義され、人の行き来に挨拶を生み、車を拒み安心を与える人の道であるというような記載もある。一方、中学校が位置している専用住宅地区は、新しい真鶴のまちとしてのいぶきがあるというふうに定義されている。ここで言えることは、現在の小学校の周辺環境のほうが、通学時に真鶴らしさを感じやすいのではないかと分析できる。
- ・ 通学については、岩地区、みさき地区という限定的なものではなく、いずれにしても全域地域交流の観点から、子どもたちだけでなく地域の人でも使うとなると、なおさら公共交通の整備が必要と考えられる。
- ・ 見守り環境については、小学校周辺はコミュニティ真鶴や消防本部、商業地域に隣接しているが、中学校のほうは真鶴駅に近く、線路を挟むが交番があるという環境である。公共空間にどれだけ近いのか、人通りの近さという点で小学校の周辺環境のほうが有効ではないかと考える。
- ・ 防災関係については、小学校にしても中学校にしても、工事中の指定避難場所の代替をどうするのか、小学校のプールの防火水槽としての機能も含めて、議論していく必要があると思う。
- ・ 近隣の状況では、小学校の高低差があり道路が狭い、中学校は平坦で幅広い。特筆することとして、小学校は敷地形状に石垣の擁壁があることが言える。工事車両の出入りは中学校のほうが便利で、小学校の擁壁の安全性については調査する必要があると思う。
- ・ 周辺の駐車場については、駅前のコインパーキング2か所が中学校には近く、小学校は公共の駐車場が基本的には確保できていない状況である。その環境が新設学校にとって良いのか、廃校利用した施設にとって良いのかという観点も見ていく必要があると思う。

- ・運動施設については、小学校の体育館も築47年経ち、大規模改修か新築かは慎重に検討する必要があると思う。中学校のほうでは、町立体育館は平成に建っている。中学校の跡地に一貫教育校ができた場合に、その町立体育館を生かし続けていくのかなどの条件も考えていかないといけないと思う。町立体育館を小中学校の体育館と合わせてしまっても良いのかということも、今の町立体育館の使用頻度や使用団体、あるいは収入状況も含めて考えていかないといけないと思う。
- ・給食施設については、現小学校の敷地に一貫教育校が建つ場合、工事中に給食施設がなくなるので、その約2年間の給食対応をどう考えるかという問題は出てくる。
- ・地域交流の点からは、小学校の敷地は公共施設や商店に近く、地域住民が寄りやすいのではないかと想定が立ち、中学校の敷地は、通勤利用者、町内の通勤、通学者だけでなく、近隣の市町村からも人流が期待できると思う。これも、それそれぞれの敷地が学校にとって良いのか、それとも廃校利用施設にとって良いのかということになると思うので、そういった観点でも議論ができればと思う。
- ・学習活動も同じく、小学校を中心としたほうは公共施設、博物館、港、商店が比較的近く、中学校では、石材採掘場に近いという位置関係になる。学習候補地との関係というところでメリット・デメリット出てくるのではないかなと思う。
- ・廃校利用の可能性ということと同時に考えていったほうが、真鶴町全体を使って教育をするという内容が教育理念に書かれていたので、そういった観点からも廃校先にどんな機能が期待できるのかということも一緒に考えていくと良いと思った。
- ・小学校は眺望に優れていて、海やお林が見られ、町民と親和性が高い、真鶴町のアイコンとなるような施設が期待できると思う。仮に廃校利用になった場合は、そういった意味で町役場や観光拠点などが考えられるのではないかなと思っている。
- ・中学校は駅や県道・国道が近く、町外の人や町外へ通勤、通学する町民と親和性が高い施設なので、商業拠点や企業誘致、あとは認定こども園など子どもの教育施設ということが考えられる。
- ・廃校利用としての町役場、観光拠点、商業拠点、企業誘致、認定こども園などという単語は、「新たな学校づくり庁内検討委員会話し合いのまとめ」の資料で明記されていたものを抽出してきているので、主観というわけではない。

瀧本委員長（進行）

- ・今日これを議論し結論を出すというよりも、皆さんに持って帰っていただき、これをたたき台として比較していくことにしたいと思う。資料の中には、議論や調査を要する部分も書かれているので、これについては町としてどう対応できるのか、次回示していただければと思う。
- ・議論は次回とするが、資料を検討するにあたっての質問は出して欲しい。

勝山委員

- ・プールの井戸水は飲めるのか。また、災害時に断水とかした時に、それを生かせるのか生かせないのか。

⇒（上甲委員）浄水器を通せば飲める。小学校の防災倉庫に浄水器がある。

（事務局）防火水槽として、火事などの時にはプールの水を使っている。

瀧本委員長（進行）

- ・防災関係の差についても検討の視点になっているので、次回加えていって欲しいと思う。
- ・候補地については、次回3月22日の準備委員会で検討するので、もし事前に質問等があれば事務局に伝えておいて欲しい。

瀬瀬委員

- ・資料を配って終わりでは残念なので、候補地について委員の皆さんの思いなどがあれば聞かせて欲しい。

勝山委員

- ・屋上にプールは作れるのか。
 - ・真鶴らしさという点で、真鶴の子には泳げて欲しいと思う。プールの授業は必要だと思うので、もし中学校のほうになるのであれば、それも考えて欲しい。泳げない子が多く、昔は1割、2割の子が泳げなかったのに、逆に今は1割、2割の子しか泳げない。
- ⇒（瀬瀬委員）費用がかかるが可能ではある。プールを作る作らないは議論が必要だが、小学校では水泳の授業があるので、何かしら必ず体験できるようには考えていきたい。

伊藤委員

- ・新しい学校はどういうところを目的にしているのか。「町としてはこうしたいから、この中の項目のここを重視したい。」と提案していただいた上でないと、考えてくることは難しい。提案があれば「だから、こっちにしたい。」とか考えてきて、次回意見として言ってるので、そのような形が良いと思う。

瀧本委員長（進行）

- ・協議「教育理念と学校建設に係る基本構想について」を事務局から提案してもらい、両方合わせて次回検討することとする。

○教育理念と学校建設に係る基本構想（素案）について（事務局から説明）

- ・今後新たな学校を作っていく上での、ベースになるものである。
- ・教育基本理念として「教育は人づくり、人づくりはまちづくり、まちの未来づくり」という言葉を掲げている。永く、真鶴町の教育理念として謳われてきたものになる。
- ・これからの真鶴の子ども像は、昨年7月に学校教育あり方検討会から出された報告書で示されたものである。この6つの子ども像が学校教育を進める上でも、学校建設を考える上でも、めざすべき子どもの姿として押さえておく必要があると考えている。
- ・学校建設に係る3つの基本方針は、過去2回の学校建設準備委員会と第1回の教育を語り合う会で出された意見を整理して、大きく3つの柱としたものになる。柱として「1真鶴の魅力を生かした学び舎づくりの推進」は子どもたちの生活に関するもの、「2交流と多様性をキーワードとした双方向の学びの実現」は学校を中心に子どもたちと町民の学びに関するもの、「3真鶴町全体をフィールドにした教育の推進」は町全体を学び場とする考え方を示している。今

までに出されてきた具体的な意見やアイデアを、この3つの基本方針に分類し、建築基本構想として取りまとめたものがこれになっている。

- ・今回は素案①であり、今日の話し合いや第2回教育を語り合う会、アンケートの結果については、これから反映させることになる。これからも意見やアイデアが出されると思うので、何度か精査しながらブラッシュアップしていきたいと考えている。もし落ちている点などがあれば、指摘してもらいたい。

瀧本委員長（進行）

- ・確認として、教育の基本理念とこれからの真鶴町の子ども像については、今までの流れの蓄積の中で、大事にしてきているものなので、この場で検討して修正することはしない。
- ・最初に、学校建設に係る3つの基本方針だが、これまでの皆さんの意見、それから教育を語り合う会の中で出てきたものということになっているが、方針の分け方、文面等について意見があれば出して欲しい。

（特になし）

- ・今のところは、特になしということを確認する。もし出てくるようだったら、その時点で出していただいて構わない。
- ・少し時間を取るのので、それから意見を出して欲しい。

（資料内容の確認）

- ・では、3つの基本方針に基づく建設基本構想の内容について、意見があれば出して欲しい。

朝倉委員

- ・「真鶴全体をフィールドにした教育を推進」について、地域教材のネットワーク化や真鶴の伝統・文化を学び伝える拠点の創出は非常に良いことだと思う。さらに加えるならば、石材業と書いてあるが、昔の江戸時代の資料を読むと、石方六ヶ村という言葉がある。これは岩とか真鶴だけではなく、早川、根府川、湯河原などを含め石材業は面で行われているわけである。例えば江戸城の石垣だが、いろいろな藩から集められたのであって、そういう歴史は真鶴だけではないということで、多面的に見て欲しい。漁業で言えば浦方で、下田や湯河原などを含めて面で見たい。文化面で言えば、小田原囃子は深川囃子から来て、それが岩では保存会があり、江戸の文化の一つであるという面で捉えたものを、児童・生徒に教えたら良いのではないかと思う。
- ・コミュニティ・スクールについては、まなづる小学校で評議員として協議しているが、コミュニティ・スクールを通じて、地域の課題を解決していくことが非常に求められているのではないかなと思う。昨年11月、茅ヶ崎市で午前午後5時間も勉強に行ってきたが、茅ヶ崎市では「まちぢから協議会」と言って、いろいろな諸団体が集まって、地域の課題を解決するということが盛んであった。学校運営協議会を通じて、それができれば良いと思う。

伊藤委員

- ・コミュニティ・スクールとしての機能をもった学校でありたいと思っている。ただ、小学校では来年度から評議員会がコミュニティ・スクールとして移行するが、中学校はまだ全然動いて

いない。そこをどう組み合わせると一つのものにするのかは、少し気になる。構想としては、全く新しいものを新しい学校で真鶴版のコミュニティ・スクールとして作りたいという考え方で良いのか。

⇒（瀧本委員長）小学校では、コミュニティ・スクールとして来年度からどういう活動していくのか、検討を始めている。まだ、どちらの校舎に行くのか分からないが、新校舎ができる前に一緒に生活をするようになる。その新校舎に入る前の移行期間に、コミュニティ・スクールについて小中で調整を図ることになる。

（瀬瀬委員）コミュニティ・スクールは、6年度に小学校のほうで立ち上げていただくようお願いしている。中学校にもできて、それが一緒になればという考え方もあるが、まずは小学校で立ち上げ、どういう進め方が良いかなど試行的にやっていただき、そこに中学校が吸収されるような形で、一貫教育校の新しい真鶴版のコミュニティ・スクールができれば良いと考えている。実際には、地域の中でいろいろな委員を兼ねている方も多く、2つのところに作っても委員を選定することが難しいという現状もある。今は地域との連携という点で、小学校のほうが進んでいると捉えているので、まずは小学校で試行的にスタートしたいと考えている。

勝山委員

・「すべての子どもたちの居場所となるような余裕のある空間作り」とあるが、中学校の学校保健委員会に参加し、多様性の部分として性同一性障害の子どもたちもいるという話があった。そういう子どもたちが使えるようなトイレなども、居場所としてこの中に入っているのか。

⇒（瀧本委員長）具体的には書いてないが、これから入れ込んでいく感じになると思う。これから計画を考える中で、今の視点も入ってくると思う。

（瀬瀬委員）最近の学校のトイレも、昔のような画一的なものではなく、いろいろ工夫されている。性同一性障害のお子さんたちにも配慮した設備にはしたいと思っている。

上甲委員

・基本構想の中に、人権的な視点を取り入れてもらいたい。教える側も教わる側も、そこに関わる地域の人たちも、しいては真鶴町に住んでいる方、通って来られる方、すべての人がそういう視点をもってこの学校があるというような。そうするとジェンダー関係の環境整備だったり、バリアフリーだったり、そういう視点も必要となってくるので、あえてそれを言葉にして入れて欲しい。

露木委員

・「交流と多様性を柱とした双方向の学びの実現」というところで、何をもって双方向になるのかなと考えてしまう。この交流と、2番目のアスタリスクの多様性のところは、交流として一括りにできるのではないかなと思う。仕組みも含めて、交流というものを柱とした多様な学びなのではないかと思った。高校生・大学生を含めた大人も子どもも学び直しというところで、夜間中学も注目されている時代でもあり、チャレンジとリトライはとても大事なことである。高齢化社会でもまだまだ学び、ずっと学び続けるというところもあるので、多様な学びというようなイメージのほうが良いかと思った。

瀧本委員長（進行）

- ・ 2番の柱ところは変更した方が良い感じか。双方向の学びではなく、多様な学びなのではないかなと、個人的に思った。

藤井委員

- ・ 「真鶴の魅力を生かした学び舎」をもう少し具体化、とんがらせていきたいなと思った。この言葉だと少し一般論的なものに近く、もう少し真鶴ならではの居場所は何だろうとか、何か空間のイメージにつながるような、子どもの特性が他の地域に比べてないだろうとか、考えてみる必要があるように思う。例えば、ゆったりしているのかとか、集まりやすいとか、それとも1人だけが多いとか、何かを学ばせたい方向性も含めて、地域の特性が出てくると嬉しいなと思った。
- ・ 「真鶴の」ということも大事だが、例えば東京都内から新しい学校に興味をもつ人の視点でいくと、多分「真鶴の」といっても弱い感じがする。参考までに、離島経済新聞というメディアだが、ここに「シマ育のすすめ」という島で学びませんかということをやッチコピーに、移住促進をしている記事がある。真鶴は半島なのが魅力で、自然や文化が豊かで結構島的な魅力がありつつ、島ほど閉じずに都内とか他の地域とのつながりがあることはすごい魅力だと思っている。ぜひ、ここに真鶴半島と入れて欲しいというのが願いである。もっと言うと、「半島まるごと学校」のようなやッチフレーズみたいなものも良いと思う。みんながわくわくしつつ、他と違う学校ができるみたいな期待感が、ここに込められたら良いなと思っている。

倉澤委員

- ・ 子どもたちが少なくなっていくということは、統計的には見えますが、真鶴のこれからというのは、やはり開かれていかないといけないのかなと思う。そうなると、本当に外から入りやすく、また、子どもたちにも魅力ある教育を受けやすい機会を作ってあげられる、そんな真鶴であって欲しいと思った。

古川委員

- ・ 7年後の4月には、新校舎になっているということに、すごいなと思って感動している。ちょうど7年後だと、新生児を産んだお母さんたちのお子さんが1年生に上がる頃で、ここ最近ではコロナで出生が20人くらいになってしまっているが、ぜひそのお母さんたちの意見というものもすごく貴重で、第1期生のお子さんたちになってくるので、その声をぜひ拾っていただきたいと思う。
- ・ 学校立ち上げにあたってのやッチコピーはすごく大事で、この町の子どもはすごく絵が上手で、感性が豊かだなと思う。自然の中で生まれ育ったということと、何も無いところから作り出して遊ぶ楽しさとか、そういうことにすごく特化していると思う。これだけ真鶴にアーティスト系の方たちが移住してくるのは、やはり町が魅力をもっているからだと思う。住んでいる私たちには気が付かないことがあると思うので、その人たちにどんどん出前授業に来てもらい、子どもたちの感性をもっともっと上げていって芸術家を育てて欲しいと思う。食にこだわる保護者も多いので、例えば、「ここで作ったものを使って給食を作っています。」ということとは、移住の条件になるくらいの大きな魅力になっている。

玉田委員

- ・これから子どもが産まれる方などの意見も、もう少し聞きたいという気持ちがある。福祉課が行っている親子教室などもあると思うので、そういうところで意見も聞く機会があっても良いと思う。やはり今の保護者の意見とか、子どもたちの声を本気で聞くのであれば、今の学校生活に少しでも反映していただきたいと思っている。今の子どもたちが小学校や中学校に行った時に、一貫教育の良さを少しでも味わうことができれば、保護者ももっと本気で考え、子どもたちも自分がその授業を受けられると思ったら、もっと主体的になれるかも知れない。事務局で検討していただければと思う。

瀧本委員長（進行）

- ・これで本日の協議事項はすべて終了となった。なかなか皆さんの意見を吸い上げられなくて申し訳なかったが、次回の課題がたくさん見えたということで、かなり前進したと捉えている。また、3月に会う時までには、ぜひもう1度今日の資料を見て、何か意見等があったら、事務局に出していただきたいと思う。

閉会

事務局

- ・次回の話し合うテーマについて、保護者アンケートの分析結果について、建設場所について、学校建設に係る基本構想の素案について等とする。
- ・次回は3月22日（金）、午後1時40分から。会場は傍聴者数による。第3回教育を語り合う会は2月17日（土）、午前9時30分から。会場は町民センター3階講堂。
- ・これをもって第3回学校建設準備委員会を終了とさせていただく。ありがとうございました。